

〈資料〉

「保育学生のための実習日誌における『考察』の書き方の手引き」の作成について

上 萬 雅 洋

Masahiro JOMAN :

About the Making of “The Guide on How to Write ‘Consideration’
in the Training Diary for Childcare Students”

鳥取看護大学・鳥取短期大学研究紀要 第76号 抜刷

2018年1月

〈資料〉

「保育学生のための実習日誌における『考察』の書き方の手引き」の作成について

上 萬 雅 洋¹

Masahiro JOMAN : About the Making of “The Guide on How to Write ‘Consideration’
in the Training Diary for Childcare Students”

保育・教育実習における実習日誌の中でも「考察」の書き方に悩む学生のために、どのような考え方で書いていけば良いか手引きという形にした。さらに手引きを使用して実践的な指導をし、実習日誌の考察がどの程度充実するかを検証する事によって、手引きの有用性と課題を導き出した。

キーワード：保育学生 保育実習 教育実習 実習日誌 考察

はじめに

保育・教育実習における実習日誌の記述は、保育学生にとって日々の大切な記録であり、これから保育者となるための重要な視点づくりである。特に「考察」の欄においては、その視点づくりにおける最も重要な記述欄である。

しかしながら、実際の実習現場では保育学生の「考察」の浅さ、未熟さが度々指摘されている。柴田(2006)¹⁾や権藤(2007)²⁾など実習日誌に関する研究では、事実の羅列や感想にとどまっている日誌が多いとあり、佐藤(2006)³⁾は保育者として重要な子どもの心を推し量るという洞察力の低さを指摘している。その上で上村(2008)⁴⁾はこう述べている(以下要約)。1. 省察を重ねていく上では、目の前の出来事における気づきを「理解できた」「解釈できた」という段階に留めず、さらに発展して「何故そうなのか」という視点でその心情や原因を探り、自分の考えを膨らませていくプロセスが、学びの深化を図るために重要である。2. すべての出発点は「気づく」

ことであり、気づきを発展させ「なぜ?」と原因を探求し考えを深めていく思考の道筋を、保育者養成の段階で教授していく必要がある。3. 「もし自分がこのクラスの保育者であったらどうするか」という観点で実習に臨むことが大切である。4. 子どもの一見さりげない行為やそこにおきた出来事の意味を一つ一つ丁寧に考えていく姿勢が保育を理解する上で重要である。

現在の保育学生の置かれている現状においては、授業内での日誌記述の学習時間は限られており、実習現場においても限られた日数内での指導担当者の指導となるため、なかなか満足と言えるまでの記述が身につけにくいと考えられる。筆者自身も保育学生時代においては、「考察」という概念を理解するのが困難であった一人である。

そこで、実習日誌における「考察」欄の充実を図るため、上記の考え方にに基づき実際の実習日誌の記述にたどり着けるよう「手引き」という形で手順を示唆することで、保育学生がよりわかりやすく、より深く考察ができるよう手引きの作成及び指導を試みた。

1 鳥取短期大学幼児教育保育学科

1. 過去の实習における成績の傾向

鳥取短期大学幼児教育保育学科の実習における成績報告書には、8つの項目と総合評価の欄があり、「大変よい」「よい」「普通」「やや劣る」「劣る」の5段階で評価される。保育実習（保育所）における8つの評価項目は以下の通りである。

- 1 「保育実習に対する意欲と基本的態度」
- 2 「環境や子どもに対する観察と理解（見学・観察実習）」
- 3 「子どもへの適切な接し方（参加実習）」
- 4 「安全への配慮や環境整備」
- 5 「用件の処理や職員との連携（参加実習）」
- 6 「保育記録と考察（日誌の内容および提出）」
- 7 「保育の指導計画と準備（指導実習）」
- 8 「保育の展開と考察（指導実習）」

上記の項目中の6「保育記録と考察（日誌の内容および提出）」について、平成24～28年度の実習成績の分析を試みた（保育実習と教育実習の評価項目には若干の違いがあるため保育実習Ⅰ-1及び保育実習Ⅱの成績報告書を参考）。ここでは、「保育記録と考察（日誌の内容および提出）」の項目の評価において他の項目とさほど差異は見られず、むしろ1「保育実習に対する意欲と基本的態度」に次いで2番目に良い結果が見られた。

そこで、さらに各評価項目の5段階評価の隣にある「所感（実習園指導者による自由記述）」欄の記述を全て拾い上げ、高評価群と低評価群に分けて記述内容の分析を試みた。ここでは、高評価群の約4～5割は日誌の提出状況について、5割が考察の内容について高い評価の記述が見られた。続いて低評価群では約3～4割は文章表現について、5～6割が考察の内容について低い評価の記述が見られた。

以上の事から、高評価ではあっても必ずしも考察内容が評価されたものではないということであり、

さらに文章表現（話し言葉と書き言葉、誤字脱字等）においての課題も露呈された。

2. 「手引き」の作成について

手引きの作成にあたっての最大のポイントは、日誌を記入する学生にとっての書きやすさである。設問に答える形で空欄を順に埋めていき、最終的に文章にする方式にした。一つひとつの設問についてはなるべく理解しやすく具体的に書けるようにした。設問内容は以下の通りである。

- 1 「実習生の気づき（子どもの行動、事象、状態など）を書き出す。」
- 2 「実習生の解釈（こう思った）、行動（こう対処した）を書き出す。」
- 3 「保育士の行動で気づいたこと、学んだことを書き出す（言動、援助、配慮、個別対応等、またそれらが意図するもの）。」
- 4 「子どもの内面（心情、個性、背景）から気づいたこと、学んだこと（行動の意図など）を書き出す。」
- 5 「自分の解釈、行動が妥当であったかどうかを振り返る。」
- 6 「次の日の関わり方、具体的対策や抱負を書き出す。」

まず第一に大切なのは、実習生の気づきである。子どものさりげない行動、言動、姿を客観的且つ周りの状況も含めて的確に捉えることが肝要である。そして、自分の取った行動と保育士の取った行動を比較し、保育士のあり方を模索すること。また、子どもの内面、心情を推し量ることで、より子どもの行動の意味を丁寧に分析し、考えを深めることが大切であると説いた。その後、自分の取った行動の反省をもとに、次の日の子どもへの関わり方や抱負を具体的に導き出せるようにした。

また、保育所保育指針や幼稚園教育要領、幼保連

携型認定こども園教育・保育要領の5領域中の「内容」を参考資料として添付した。これは学生の視点が未熟な点、あるいは語彙不足を補完するためである。なお、より意識させるために全て疑問形式にして載せている。

3. 手引きによる実践

実際に手引き（資料①参照）を使用して実践を試みた。初めに文章表現に関連して「話し言葉と書き言葉」について指導を行う。この指導にあたっては学科共同研究室内の廊下に貼り出した「現場で役立つ実践エピソード集（上萬著）」（資料②参照）の中から「指導案や日誌に関する文章表現について」を題材に用いた。

その後、学生には以前の実習日誌をもとに、日記や感想文のようになってしまった記述を拾い出させた。そして当時の状況を思い出しながら、手引きにしたがって実践を試みた。

以下、以前の実習日誌に記述したものが、この手引きを使ってどのように変化したか、数例紹介する（文章は原文のまま）。

事例1

指導前

こどもに「先生これやって」と言われて困った。
指導後

自分でできることでも「先生これやって」と言われ、何でも実習生がやっちゃっていいのか困ってしまった。担任の先生には言っていなかったが、近くで見ていた先生が「自分でできることは自分でしましょう」と声をかけていた。担任の先生が忙しくて甘えることができず他の人に甘えているのだらうと思った。「一緒にやろうか」と声をかけ一人でできる様子なら「先生にやって見せて、教えてほしいな」と声をかけるようにしたい。

この事例では、簡素な感想的表現にとどまっていたものを、その時の詳細を掘り下げ目標設定にまで至っている。子どもの心情を押し量り、保育士の対応から学んでいる姿が的確に表現されている。

事例2

指導前

子どもは好きなことに対して集中力が強いと思う。布巾を水道でしぼっていたら「僕にも貸して」と言われ、子どもに貸すとなかなか終わろうとしなかった。そのことから子どもは、集中して取り掛かるのが楽しいのだと思えた。また、子どもが自らしようと思った遊びを取り入れることで集中力が上がると考えた。その一つが水遊びや泥遊びだ。泥遊びは、思い通りに形を作れるので集中して取り組めると思う。

指導後

子どもは水遊びや泥遊びに対して集中力が続く事に気付いた。そう思えたのは、私が布巾を水道でしぼっていると一人の園児が“手伝う”と言ってからなかなか終わらなかったことからだ。私が困っているのに気付いた先生は、外にバケツを用意し園児の水遊びを他の子どもと共有できるように発展させていた。先生の行動から楽しいという気持ちを途中でやめさせるのではなく、一緒になって楽しさを共有しているのだと気付けた。子ども達から気づいた点は、水の冷たさが心地よかった。泥遊びは泥の冷たさや感触が気持ちよく、楽しさも盛り上がり集中力が続くポイントだったのではないだろうか。実際に私がしたことは、水道の水がもったいなかったのをやめるよう促してしまい、もっと子どもの気持ちを知ることが大切だと思えた。1人の園児から遊びが広がってくることを知れたので、注意深く子どもの遊びを見るようにする。

この事例では、実習生の一方的な考え方から脱却し、客観的に保育士や子どもの行動を分析し、自分

の反省、目標へとつなげる事ができている。

事例3

指導前

一人で遊んでいるAちゃんがいた。私がAちゃんの所へ行き「何して遊んでいるの?」と聞いてみると、Aちゃんは私の服をつかみ、みんなの方を向いた。私は様々な遊び道具でAちゃんと一緒に遊んでいた。Aちゃんは、しばらくたってから、連絡ノートを書いている先生の所へ行った。

指導後

一人で遊んでいるAちゃんがいた。私がAちゃんの所へ行き、何をして遊んでいるのか聞いてみると、私の服をつかみ、みんなが遊んでいる方をずっと眺めていた。私は、Aちゃんはみんなと遊びたいことに気付いた。したがって私はAちゃんにみんなと一緒に遊ぶよう声をかけた。先生の行動を見るとクラスのみんなと部屋から移動する時も、いつもAちゃんと手をつなぎ移動をするなどしていた。そしてAちゃんも先生の手を力強くにぎっていた。私はAちゃんに声掛けをするだけでなく、手をつなぎ一緒にみんなの所へ行くなどAちゃんもみんなと楽しく遊べるように何らかのサポートをしてあげれば良かったと感じた。明日からは1人1人の子どもに対しての対応の仕方をよく考えながら接していきたい。

この事例では、子どもの姿と実習生の行動を書いたただけであったものが、保育士の普段の対応の仕方から学び取っている様子を書いたものに変化している。その時の保育士の姿だけでなく、普段の接し方にまで注意が及んでおり、観察の継続性、連続性の大切さを思わせる。このように、事例によっては実習生の着眼点の幅を広げさせることができる。

事例4

指導前

自分では、たたいたり、人に暴力を振るうのはよくないと思っても、やってしまう子どもがいた。「痛いからやめて」などの言葉を言ってやめることを伝えるようにした。

指導後

友達や先生と一緒に遊びたいけど、素直に「一緒に遊ぼう」と言えないのかなと思ったので、「一緒に〇〇をやろう」と言ったり、顔の表情を変えて、その子ときちんと話し合うようにした。初めての人と会ったりすると素直になれないと思うので接し方を考えるべきだと思った。

この事例では、何となく状況は理解できるものの、いくつかの項目が省略され、且つ全ての項目において具体性に欠けている。一つ一つの項目を具体的に書く事の重要さがわかる事例である。

事例5

指導前

今日は天気がよく戸外で遊ぶ時間があった。ブランコや滑り台、砂場遊びなど、それぞれの子どもたちが、やりたい遊びをしていた。その中で「先生見といて」と自分の遊ぶ姿を主張する子どももいて「すごいね」と声をかけると繰り返しやる姿が見られた。

指導後

今日は園外で戸外遊びをした。子どもはそれぞれやりたい遊びをしていた。その中で、鉄棒やジャングルジムをする子どもたちに「先生見といてね」と言われることがあった。「すごいね」と言葉をかけると、繰り返し見せる様子が見られた。普段からも、子どもたちは保育士に「見といて」と言って遊ぶ姿を見せていた。保育士は一人一人に丁寧に対応し、言葉をかけていた。子どもたちは、大人に見せることで、できるよ

というアピールや褒めたり認めたりしてほしいという思いがあるのではないかと感じた。そこで保育士が「すごいね」「かっこいい」などと言葉をかけることで、子どもの自己肯定感につながるのではないだろうか。今日は「すごいね」しか言葉をかけられなかったので、明日は「今度はこうしてみたら？」など子どもの遊びが発展するような言葉がけも行いたい。

この事例では、一つ一つの項目はしっかり書かれているが、全体的に文章が必要以上に長くなっている。この辺りをまとめきれぬ文章表現能力も必要とされる。

事例6

指導前

- ・お友達にもルールを教えていました。
- ・ドッジボールを子ども達と一緒に楽しんだ。
- ・想像が豊かでおもしろかったです。
- ・周りが見れていてすごいと思った。
- ・子ども達は絵本に夢中になっています。
- ・お母さんが見ているから大丈夫という意味が込められていたのでしょうか。
- ・環境づくりが大切だ。

指導後

- ・お友達にもルールを教えていた。
- ・ドッジボールを子ども達と一緒にを行い、楽しいという気持ちを共有した。
- ・想像が豊かで関心した。
- ・周りが見れていて非常に良かった。
- ・子ども達は絵本に興味関心を持っている。
- ・お母さんが見ているから大丈夫という意味が込められていたのだろうか。
- ・環境づくりが大切である。

この事例も数件見られた。手引きによる実践の際、「話し言葉と書き言葉」のレクチャーを最初に行ったため、本題の「考察」ではなく文章表現の推敲を

してしまった事例である。しかし、それでもなお文章表現の間違ひが見受けられる。これらの学生には再度説明をし、再度手引きを使用して指導を行った。

おわりに

実践事例を見ると、手引きを利用する事によって、個人差はあれ考察に深まりが出る事がよく見て取れた。ただ、これが実際に実習成績に直結するかというと新たな疑問点も浮かんでくる。

まず、学生自身が子ども達の様子を的確に捉えられるかどうかである。例えば、保育所保育指針を参考資料として挙げているが、必ずしもそこに当てはまる事例が実習で待っているわけではないからである。

もう一つの疑問点としては、評価の方法である。現場の保育士及び教諭についても「考察」がどのようなものであるべきか、という定義は個人個人で様々であり、曖昧である可能性も大いに考えられる。したがって、この手引きに則って書いたとしても、評価に直結するとは限らない。

しかし、ここで保育者養成の立場として履き違えてはいけない所は、あくまでも成績云々ではなく、より素晴らしい視点や考え方やそれに伴う技術、能力を持った保育士・幼稚園教諭を世に送り出すことが大切であるという事だ。そのためにも1日1日の実習が実りあるものになってほしいという願いを込めて、今後この手引きを参考にしてほしい。

引用・参考文献

- 1) 柴田直峰「施設実習における実習日誌—プロセスレコード導入の試み—」, 全国保育士養成協議会『全国保育士養成協議会第45回研究大会研究発表論文集』, 2006, pp. 120-121.
- 2) 権藤真織「保育実習における実習日誌の記述内容と実習成績との関連—学生自身による日誌の内容分析学習を通して—」, 『近畿大学豊岡短期大学論集』第4号(2007), p. 46.
- 3) 佐藤達全「保育者を目指す学生の基礎学力につ

いて一文章表現に見える問題点とその対応一」,
全国保育士養成協議会『全国保育士養成協議会第
45回研究大会研究発表論文集』, 2006, pp. 66-67.

4) 上村晶「幼稚園実習における学生の学びに関する一考察」, 『近畿大学豊岡短期大学論集』第5号
(2008), pp. 56-58.

＜実習日誌「考察」の書き方の手引きシート＞

1、実習生の気づき（子どもの行動、事象、状態など）。

2、実習生の解釈（こう思った）、行動（こう対処した）。

3、保育士の行動で気づいたこと、学んだこと（言動、援助、配慮、個別対応等、またそれらが意図するもの）。

4、子どもの内面（心情、個性、背景）から気づいたこと、学んだこと（行動の意図など）。

5、自分の解釈、行動の振り返り（反省点など）。

6、次の日の関わり方、具体的対策や抱負。

資料①

保育学生のための実習日誌「考察」の書き方の手引き

平成 29 年度版

上 萬 雅 洋

保育実習における実習日誌の記述は保育学生にとって日々の大切な記録であり、これから保育士となるための重要な視点づくりであります。特に「考察」欄はその視点づくりにおける最も重要な記述欄です。しかし実際の実習現場では、保育学生の「考察」の浅さ、未熟さが度々指摘されています。いわゆる日記的な記述になっている場合が多いようです。学内での日誌記入の学習時間も限られていますし、実習現場においても限られた日教内での指導担当者の指導となるため、なかなか満足と言えるまでの記述が身につくにくいのが現状です。

この手引きは、保育学生の実習日誌の記述の充実を図るため、「考察」欄に焦点を当て、実際の日誌記述にたどり着けるように手順を示しました。

以下に示す手順にしたがって、下記の枠内に書きましょう。尚、記述の際には発達年齢を考慮に入れます。

- 1、実習生の気づき（子どもの行動、事象、状態など）を書き出す。
- 2、実習生の解釈（こう思った）、行動（こう対処した）を書き出す。
- 3、保育士の行動で気づいたこと、学んだこと（言動、援助、配慮、個別対応等、またそれらが意図するもの）。
- 4、子どもの内面（心情、個性、背景）から気づいたこと、学んだこと（行動の意図など）を書き出す。
- 5、自分の解釈、行動を振り返り、反省点などを書き出す。
- 6、次の日の関わり方、具体的対策や抱負を書き出す。

シートが埋まったら、以上の項目の順を従って簡潔に分かりやすくまとめ、文章化して書き出しましょう（※事例によっては書けない項目もあるのですがその場合は書かなくてもよい）。この際、注意すべきことは以下のとおりです。1、内容を多く盛り込み過ぎないこと。2、読みやすさに配慮すること。3、幾つかの事象を取り上げて、日誌に記述すること。

全ては実習生の「気づき」から始まります。「気づき」から「なぜ？」と推し進め、原因を探求し、自分の考えを深めましょう。こどものさりげない行為、出来事の意味を丁寧に分析することが大切です。これらの考察により「子どもの心を推し量ること」「保育士のあり方を模索すること」を学び、さらに「自分が担任であつたらどうするかという視点」を持つことが大切です。

また参考資料として、視点が未熟な点、あるいは語彙等が不足している点等を補充するため、また保育指針を常に意識した視点を持たせるために、保育所保育指針、幼稚園教育要領および幼保連携型認定こども園教育・保育要領の5領域の中の「内容」を疑問形式に書き換えて付けて加えておきます。

< 参考資料 >

保育所保育指針における5領域の中の「内容」（質問形式での記述）

- 「健康」
 - ・ 保育士等や友達と触れ合い、安定感を持って生活しているか。
 - ・ いろいろな遊びの中で十分に体を動かさせているか。
 - ・ 進んで戸外で遊んでいるか。
 - ・ 様々な活動に親しみ、楽しんで取り組んでいるか。
 - ・ 健康な生活のリズムを身につけ、楽しんで食事しているか。
 - ・ 身の回りを清潔にし、衣類の着脱、食事、排泄など生活に必要な活動を自分でしているか。
 - ・ 保育所における生活の仕方を知り、自分たちで生活の場を整えながら見通しを持って行動しているか。
 - ・ 自分の健康に関心を持ち、病気の予防などに必要な活動を進んで行えているか。
 - ・ 危険な場所や災害時などの行動の仕方が分かり、安全に気を付けて行動しているか。
- 「人間関係」
 - ・ 安心できる保育士等との関係の下で、身近な大人や友達に関心を持ち、模倣して遊んだり、親しみを持って関わろうとしているか。
 - ・ 保育士等や友達との安定した関係の中で、ともに過ごすことの喜びを味わえているか。
 - ・ 自分で考え、自分で行動できているか。
 - ・ 自分でできることは自分でやっているか。
 - ・ 友達と積極的に関わりながら喜びや悲しみを共感し合っているか。
 - ・ 自分の思ったことを相手に伝え、相手の思っていることに気付いているか。
 - ・ 友達の良さに気付き、一緒に活動する楽しさを味わえているか。
 - ・ 友達と一緒に活動する中で、共通の目的を見いだし、協力して物事をやり遂げようとする気持ちを持っているか。
 - ・ 良いことや悪いことがあることに気付き、考えながら行動しているか。
 - ・ 身近な友達との関わりを深めるとともに、異年齢の友達など、様々な友達と関わり、思いやりや親しみを持っているか。
 - ・ 友達と楽しく生活する中で決まりの大切さに気付き、守ろうとしているか。
 - ・ 共同の遊具や用具を大切にし、みんなですべて使っているか。
 - ・ 高齢者を始め地域の人々など自分の生活に関係の深いいろいろな人に親しみを持てているか。
 - ・ 外国人など、自分とは異なる文化を持った人に親しみを持てているか。

○ 「環境」

- ・ 安心できる人的及び物的環境の下で、聞く、見る、触れる、嗅ぐ、味わうなどの感覚の働きを豊かにしているか。
- ・ 好きな玩具や遊具に興味を持って関わり、様々な遊びを楽しめているか。
- ・ 自然に触れて生活し、その大きさ、美しさ、不思議さなどに気付いているか。
- ・ 生活の中で、様々なものに触れ、その性質や仕組みに興味や関心を持っているか。
- ・ 季節により自然や人間の生活に変化のあることに気付いているか。
- ・ 自然などの身近な事象に関心を持ち、遊びや生活に取り入れようとしているか。
- ・ 身近な動植物に親しみをもち、いたわったり、大切にしたり、作物を育てたり、味わうなどとして、生命の尊さに気付いているか。
- ・ 身近な物を大切にしているか。
- ・ 身近な物や遊具に興味を持って関わり、考えたり、試したりして工夫して遊んでいるか。
- ・ 日常生活の中で数量や図形などに関心を持っているか。
- ・ 日常生活の中で簡単な認識や文字などに関心を持っているか。
- ・ 近隣の生活に興味や関心を持ち、保育所内外の行事などに喜んで参加しているか。

○ 「言葉」

- ・ 保育士等の応答的な関わりや話しかけにより、自ら言葉を使おうとしているか。
- ・ 保育士等と一緒にごっこ遊びなどをすることで、言葉のやり取りを楽しんでいるか。
- ・ 保育士等や友達の話に興味や関心を持ち、親しみをもち、話を聞いて聞いたり、話したりしているか。
- ・ したこと、見たこと、聞いたこと、味わったこと、感じたこと、考えたことを自分なりに言葉で表現しているか。
- ・ したいこと、してほしいことを言葉で表現したり、分からないことを尋ねたりしているか。
- ・ 人の話を注意して聞き、相手に分かるように話しているか。
- ・ 生活の中で必要な言葉が分かり、使えているか。
- ・ 親しみをもち、日常のあいさつをしてしているか。
- ・ 生活の中で言葉の楽しさや美しさに気付いているか。
- ・ いろいろな体験を通してイメージや言葉を豊かにしているか。
- ・ 絵本や物語などに親しみ、興味を持って聞き、想像する楽しさを味わっているか。
- ・ 日常生活の中で、文字などで伝える楽しさを味わえているか。

○ 「表現」

- ・ 水、砂、土、紙、粘土など様々な素材に触れて楽しめているか。

- ・ 保育士等と一緒に歌ったり、手遊びをしたり、リズムに合わせて体を動かしたりして遊んでいるか。
- ・ 生活の中で様々な音、色、形、手触り、動き、味、香りなどに気づいたり、感じたりして楽しめているか。
- ・ 生活の中で様々な出来事に触れ、イメージを豊かにしているか。
- ・ 様々な出来事の中で、感動したことを伝え合う楽しさを味わっているか。
- ・ 感じたこと、考えたことなどを音や動きなどで表現したり、自由にかいたり、つくったりしているか。
- ・ いろいろな素材や用具に親しみ、工夫して遊んでいるか。
- ・ 音楽に親しみ、歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を使ったりする楽しさを味わっているか。
- ・ かいたり、つくったりすることを楽しみ、それを遊びに使ったり、飾ったりしているか。
- ・ 自分のイメージを動きや言葉などで表現したり、演じて遊んだりする楽しさを味わっているか。

幼稚園教育要領における5領域の中の「内容」（質問形式での記述）

- 「健康」
 - ・ 先生や友達と触れ合い、安定感をもって行動しているか。
 - ・ いろいろな遊びの中で十分に体を動かしているか。
 - ・ 進んで戸外で遊んでいるか。
 - ・ 様々な活動に親しみ、楽しんで取り組んでいるか。
 - ・ 先生や友達と食べることを楽しんでいるか。
 - ・ 健康な生活のリズムを身に付けているか。
 - ・ 身の回りを清潔にし、衣服の着脱、食事、排泄などの生活に必要な活動を自分でしているか。
 - ・ 幼稚園における生活の仕方を知り、自分たちで生活の場を整えながら見直しをもって行動しているか。
 - ・ 自分の健康に関心をもち、病気の予防などに必要な活動を進んで行っているか。
 - ・ 危険な場所、危険な遊び方、災害時などの行動の仕方が分かり、安全に気を付けて行動しているか。
- 「人間関係」
 - ・ 先生や友達と共に過ごすことの喜びを味わっているか。

- ・ 自分で考え、自分で行動しているか。
 - ・ 自分でできることは自分でしているか。
 - ・ いろいろな遊びを楽しみながら物事をやり遂げようとする気持ちをもっているか。
 - ・ 友達と積極的にかかわりながら喜びや悲しみを共感し合っているか。
 - ・ 自分の思ったことを相手に伝え、相手に活動する楽しさに気づいているか。
 - ・ 友達とよさに気づき、一緒に活動する楽しさを味わっているか。
 - ・ 友達と楽しく活動する中で、共通の目的を見いだし、工夫したり、協力したりなどしているか。
 - ・ よいことや悪いことがあることに気づき、考えながら行動しているか。
 - ・ 友達とのかかわりを深め、思いやりをもっているか。
 - ・ 友達と楽しく生活する中でまじりの大切さに気づき、守ろうとしているか。
 - ・ 共同の道具や用具を大切にし、みんななどで使っているか。
 - ・ 高齢者をはじめ地域の人々などの自分の生活に関係の深いいろいろな人に親しみをもっているか。
- 「環境」
 - ・ 自然に触れて生活し、その大きさ、美しさ、不思議さなどに気付いているか。
 - ・ 生活の中で、様々な物に触れ、その性質や仕組みに興味や関心をもっているか。
 - ・ 季節により自然や人間の生活に変化のあることに気付いているか。
 - ・ 自然などの身近な事象に関心をもち、取り入れて遊んでいるか。
 - ・ 身近な動植物に親しみをもって接し、生命の尊さに気づき、いたわったり、大切にしたりしているか。
 - ・ 身近な物を大切にしているか。
 - ・ 身近な物や遊具に興味をもってかかわり、考えたり、試したりして工夫して遊んでいるか。
 - ・ 日常生活の中で数量や図形などに関心をもっているか。
 - ・ 生活に関係の深い情報や施設などに興味や関心をもっているか。
 - ・ 幼稚園内外の行事において国旗に親しんでいるか。
 - 「言葉」
 - ・ 先生や友達の話に興味や関心をもち、親しみをもって聞いたり、話したりしているか。
 - ・ したり、見たり、聞いたり、感じたり、考えたりなどしたことを自分なりに言葉で表現しているか。
 - ・ したいこと、してほしいことを言葉で表現したり、分らないことを尋ねたりしているか。

- ・ 幼保連携型認定子ども園における生活の仕方を知り、自分たちで生活の場を整えながら見直しを持って行動しているか。
- ・ 自分の健康に関心を持ち、病気の予防などに必要な活動を進んでいるか。
- ・ 危険な場所、危険な遊び方、災害時などの行動の仕方が分かり、安全に気を付けて行動しているか。

○ 「人間関係」

- ・ 保育教諭等や友達と共に過ごすことの喜びを味わっているか。
- ・ 自分で考え、自分で行動しているか。
- ・ 自分でできることは自分でしているか。
- ・ いろいろな遊びを楽しみながら物事をやり遂げようとする気持ちを持っているか。
- ・ 友達と積極的にかかわりながら喜びや悲しみを共感しているか。
- ・ 自分の思ったことを相手に伝え、相手の思っていることに気付いているか。
- ・ 友達と楽しく活動する中で、共通の目的を見いだし、工夫したり、協力したりなどしているか。
- ・ よいことや悪いことがあることに気づき、考えながら行動しているか。
- ・ 友達とのかかわりを深め、思いやりを持っているか。
- ・ 友達と楽しく生活する中でまじまじの大切さに気づき、守ろうとしているか。
- ・ 共同の道具や用具を大切にし、みんなで使っているか。
- ・ 高齢者を始め地域の人々などの自分の生活に関係の深いいろいろな人に親しみを抱いているか。

○ 「環境」

- ・ 自然に触れて生活し、その大きさ、美しさ、不思議さなどに気付いているか。
- ・ 生活の中で、様々な物に触れ、その性質や仕組みに興味や関心を持っているか。
- ・ 季節により自然や人間の生活に変化のあることに気付いているか。
- ・ 自然などの身近な事象に関心を持ち、取り入れて遊んでいるか。
- ・ 身近な動植物に親しみを抱いて接し、生命の尊さに気づき、いたわったり、大切にしたいと思っているか。
- ・ 身近な物を大切にしているか。
- ・ 身近な物や遊具に興味を持ってかかわり、考えたり、試したりして工夫して遊んでいるか。
- ・ 日常生活の中で数量や図形などに関心を持っているか。
- ・ 日常生活の中で簡単な標識や文字などに関心を持っているか。

- ・ 人の話を注意して聞き、相手に分かるように話しているか。
- ・ 生活の中で必要な言葉が分かり、使えているか。
- ・ 親しみをもって日常のあいさつをしているか。
- ・ 生活の中で言葉の楽しさや美しさに気付いているか。
- ・ いろいろな体験を通じてイメージや言葉を豊かにしているか。
- ・ 絵本や物語などに親しみ、興味をもって聞き、想像をする楽しさを味わっているか。
- ・ 日常生活の中で、文字などで伝える楽しさを味わっているか。

○ 「表現」

- ・ 生活の中で様々な音、色、形、手触り、動きなどに気付いたり、感じたりするなどして楽しんでいくか。
- ・ 生活の中で美しいものや心を動かす出来事に触れ、イメージを豊かにしているか。
- ・ 様々な出来事の中で、感動したことを伝え合う楽しさを味わっているか。
- ・ 感じたこと、考えたことなどを音や動きなどで表現したり、自由にいかしたり、つくったりなどしているか。
- ・ いろいろな素材に親しみ、工夫して遊んでいるか。
- ・ 音楽に親しみ、歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を使ったりなどして楽しさを味わっているか。
- ・ かいいたり、つくったりすることを楽しみ、遊びに使ったり、飾ったりなどしているか。
- ・ 自分のイメージを動きや言葉などで表現したり、演じて遊んだりするなどの楽しさを味わっているか。

幼保連携型認定子ども園教育・保育要領における5領域の中の「内容」（質問形式での記述）

○ 「健康」

- ・ 保育教諭等や友達と触れ合い、安定感を持って行動しているか。
- ・ いろいろな遊びの中で十分に体を動かしているか。
- ・ 進んで戸外で遊んでいるか。
- ・ 様々な活動に親しみ、楽しんで取り組んでいるか。
- ・ 保育教諭等や友達と食べ物を楽しんでいるか。
- ・ 健康な生活のリズムを身に付けているか。
- ・ 身の回りを清潔にし、衣類の着脱、食事、排泄などの生活に必要な活動を自分でしているか。

資料②

エピソード7：指導案や日誌に関する文章表現について（2）

前回、「話し言葉と書き言葉」について問題を出しました。今回はそれに関連して変換例を挙げてみます。以下を参考にして回答を導き出してみてください。この機会に一つでも多く覚えておくと、指導案や日誌を書く際に便利だと思います。

です・ます → である
 ※「いきなです」は「いきなである」という事になってしまうので誤りです。

だから → したがって でも → しかし ○○だけど → ○○だが

文章が長くて読みづらい → 文章が長く、読みづらい ○○して → ○○し

とつても → とでも すごい・すごく → 非常に あんまり → あまり

いっぱい → たくさん・多く・数多く ちよっと → 少し・多少 今 → 現在

全然 → まったく 全部 → すべて たぶん → おそらく

いちばん → もっとも 絶対に → かならず みたいだ → ようだ

けど → だが だから → したがって それで → そのため

だつて → なぜなら じゃあ → では から → ので

たら → ば (行ったら → 行けば) けど → が (呼んだけど → 呼んだが)

とき → 際 (言ったとき → 言った際) じゃない → ではない

てる → ている (○○してる → ○○している) もう一回 → もう一度

いい → よい (いい方法 → よい方法) あと → また

○○なんだと思った → ○○なのだと思った やっぱり → やはり

この他にも「ら」抜きことば（「見れる」→「見られる」）、「～したり」の使い方（「笑ったり、泣いたり」など2度使用する）、文章の重複、主語と述語の関係などにも気を付けましょう。

2016年7月

- ・生活に関する深い情報や施設などに興味や関心を持っているか。
- ・幼保連携型認定こども園内外の行事において国旗に親しんでいるか。

○ 「言葉」

- ・保育教諭等や友達の言葉や話に興味や関心を持ち、親しみをもち、話したりしているか。
- ・したり、見たり、聞いたり、感じたり、考えたりなどしたことを自分なりに言葉で表現しているか。
- ・したいこと、してほしいことを言葉で表現したり、分からないことを尋ねたりしているか。
- ・人の話を注意して聞き、相手に分かるように話しているか。
- ・生活の中で必要な言葉が分かり、使っているか。
- ・親しみをもち、日常の挨拶をしているか。
- ・生活の中で言葉の楽しさや美しさに気付いているか。
- ・いろいろな体験を通じてイメージや言葉を豊かにしているか。
- ・絵本や物語などに親しみ、興味を持って聞き、想像をする楽しさを味わっているか。
- ・日常生活の中で、文字などで伝える楽しさを味わっているか。

○ 「表現」

- ・生活の中で様々な音、色、形、手触り、動きなどに気付いたり、感じたりするなどして楽しんでいくか。
- ・生活の中で美しいものや心を動かす出来事に触れ、イメージを豊かにしているか。
- ・様々な出来事の中で、感動したことを伝え合う楽しさを味わっているか。
- ・感じたこと、考えたことなどを音や動きなどで表現したり、自由にかいたり、つくったりなどしているか。
- ・いろいろな素材に親しみ、工夫して遊んでいるか。
- ・音楽に親しみ、歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を使ったりなどする楽しさを味わっているか。
- ・かいたり、つくったりすることを楽しみ、遊びに使ったり、飾ったりなどしているか。
- ・自分のイメージを動きや言葉などで表現したり、演じて遊んだりするなどの楽しさを味わっているか。